

朋友

For You

沖縄セントラル病院
広報誌

2018年1月発行 Vol.35

1
月号



医療法人 寿仁会

沖縄セントラル病院

〒902-0076 沖縄県那覇市与儀1-26-6 TEL.098-854-5511 FAX.098-854-5519
URL <http://www.jyujinkai.or.jp/> E-mail: o-centh1@nirai.ne.jp

ユートピア沖縄

〒902-0064 沖縄県那覇市寄宮2-1-18 TEL.098-854-5551 FAX.098-851-9026
URL <http://www.utopia.jyujinkai.or.jp/>

クリニック絆

〒902-0064 沖縄県那覇市寄宮2-1-18 TEL.098-854-5531



2018 1月号
Vol. 35



表紙の花／白梅
撮 影 地／名護市源河(オーソックイ)
撮 影 時 期／平成30年1月
撮 影 者／鈴木秀幸(総務課)

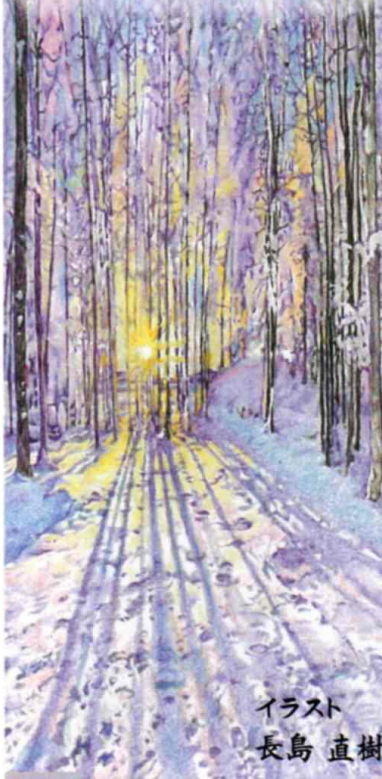


イラスト
長島 直樹

広報委員

- 📷 株木 暁夫
- 📷 鈴木 秀幸
- 📷 蔭山 美成
- 📷 新垣 耕二
- 📷 友利 真理子
- 📷 城間 貴子

STAFF

1 年頭雑感

理事長 大仲 良一

5 2018年に向けて

副院長 長島 直樹

6 職場を中心とした管理運営をめざして

監事 東江 正隆

7 新年のご挨拶

看護部 喜久川 明日香

8 ユートピア沖縄ってどういうところ?

ユートピア沖縄 儀間 政秋

10 ごあいさつ

クリニック絆 友寄 英毅

質の高いユートピア沖縄に向けて ユートピア沖縄 新垣 尋子

11 年頭に思う事

医療技術部 我謝 光茂

わたしの本欄 Vol. 4

12 『人間の土地』サン・テグジュペリ

総務課 鈴木 秀幸

NEWS BOX ー情報の玉手箱ー



平成29年12月22日、忘年会(パシフィックホテル沖縄)

年頭 雑感



医療法人寿仁会
沖縄セントラル病院
理事長 大仲 良一

謹んで新春のお祝いを申し上げます。

職員の皆様には公私共に希望に満ちた計画を立案されている事と存じます。立派に成就されますことを心から念じております。

病院創立以来40有余年で、昨年度は老朽化した建物・機器類のリニューアルと、全職員のご協力によって見事に再生し、新しい工法によって更に10年間、安心して医療活動が可能なお墨付きをいただきました。心から感謝いたします。

経営の基本スタンス

扱て、病院を取り巻く医療環境は年々厳しさを増しています。様々な課題や問題が山積する中、各病院が果たすべき役割や機能が明確に問われる時期が到来しています。

病院の経営陣をはじめ医師、看護師、そしてコメディカル、事務職等の院内における各職種の連携と、更に地域の医療機関、介護施設等との密なる連動によるチーム医療の構築が急がれます。

小生が病院経営上常に念頭においている事は、先ず良質な医療を地域の人々のニーズに応じた提供が成されているかということ、真に効果的な医療、介護が行われているか、医師をはじめ全職員が能動的に動いて、目標達成に向けて日々具現化しているか、良い医療を提供するとは“患者さんに喜ばれ、満足を与え選択される病院”であるという事です。

一方、全職員が満足出来る環境を整えているかという点であります。

医師をはじめ個々の職員が当院を、“自分達で育て、生活の基盤としての自分達の病

院だ！”という誇りをもって日常の業務に邁進して戴きたいと願っています。

その為にはお互いの密なるコミュニケーションが基本です。少なくとも、半世紀前までは当たり前だった“人と人の繋がり”や“人から人への伝承”というコミュニケーションの中で、お互いに切磋琢磨して新しいものを創って来たものが多かった。

そこから新しい“絆”が生まれ、人間同士の繋がりが強くなったものです。

科学が進歩し、個人の生活が確かに便利になったものの希薄になった人との繋がり、右を向いても左を見ても、横断歩道を歩行中でも平気にスマホに明け暮れ、“生”の人との接点を持たない現代社会の行く末を想像するだに身の毛のよだつ思いがします。

責めて院内では個人使用のスマホを控えて対面交流に努めていただきたい。

病院の理念を達成する為には組織の深い“絆”が大切です。医師と看護師の関係でもパートナーシップという視点で動かねばならない。

医療では医師がトップリーダーである事に異論はないが、看護師が指示を聞くだけでは病院の発展は望めません。

腹痛や頭痛、打撲や切り傷とか、ちょっと診て貰いたい時に昼夜を問わず診て貰える、その様な地域の人々のニーズに応えられる病院への脱皮を願ってやみません。その為には役職者を先頭に個々の職員の意識改革が不可欠であります。

そこで、当院の今後の管理体制が、従来と同じ方法では、厳しく変化する時代の波には乗っていきません。

5年後、10年後に病院が生き残る為には、新しい人材が必要です。

病院の将来を担う幹部候補生を各職種から若手を選抜して、定期的な研修、勉強会を早急に進めて参りたい。

どこまで病院の方向性や、理念戦略を組織の末端まで浸透させられるか、経営の最重要課題であります。

理事長が発した言葉が組織の末端まで伝わるプロセスは恰も伝言ゲームと同じで、その言葉の真意を中間管理職が受けて現場に伝える訳であるから、更に人を介して発信することになる訳であります。

そこで時間には限りがありますので、如何にスピーディに末端の職員まで確実に伝わるかという事が最も大切で、今年こそ役職者と全職員の意識改革に努めたいと考えます。

地域包括ケアと二次救急への取り組み

総務省の直近のデータ（2017年9月）によると、65歳以上の高齢人口は3,461万人、高齢人口の割合は27.3%と過去最高で、女性の高齢者割合は30.1%となり、我が国は世界一の老人人口になりました。

高齢人口は今後も増え続け、少子化に伴い50年後の我が国の人口は9,500万人で、65歳以上の老年人口の割合は38.4%と人口減少の歯止めがきかない見通しであります。今後益々、年金制度、介護保険制度、労働力等の諸問題が山積しています。

人口減少と共に最も身近な家族関係にも大きな変化をもたらしています。1950年代までの家族構成は平均5人でしたが、年々減少の一途を辿っています。その原因は少子化が大きな要因であるが、基本的には核家族化が問題であります。身寄りのない単独世帯は1960年に16%でしたが、2015年には35%に増加しています。

その結果、老後を高齢者施設で暮らさざるを得ない人々が2015年には200万人にも達しています。

前述の諸制度の更なる充実と共に、今後健康な高齢者には社会参加を積極的に促す

ことも大きな課題だと考えます。加齢と共に心身両面で個人差が大きくなるのが高齢期であり、的確な対応が求められます。

地域包括ケアを導入することによって、2階病棟、フローゲン、6階多目的ホールを活用したシステムを構築して参りたい。

認知症患者への対応

一方、高齢人口の増加に伴い認知症患者さんも増え、介護を要する人々のケアや指導に対する備えも避けては通れません。認知症の初期症状を発症した際にはその症状の理解に乏しい家族はパニックに陥り、立腹したり諸々の不安な状態をもたらします。

認知症を受け入れるまでには大きなハードルがありますが、家族の理解とそれをサポートする体制づくりが必要であります。介護者の息抜きをどうするか、これからは地域包括的に認知症患者と家族のケアをすすめる事が大切で、当院とユートピア沖縄を核に、本年度より認知症に対する認定看護師の更なる養成と全職員の理解とスキルアップで、当該患者さんの治療、ケアをすすめて参る計画であります。

時代や環境の変化に応じて新しい事を積極的に取り入れ、実現するために本年度は果敢に推進して参りたい。

当院の様な中、小病院では“私はここまでしかやりません”という消極的な志向ではなく、もう一步先の事や、気づいた事は率先してやっていく環境づくりが大切です。

地域に対して今後は強力なメッセージが大切であり、当院は小回りが利く病床数で、他の医療施設にない病院の機能を特化し、ガンマ・ナイフ、高気圧酸素療法、特殊健診等の緻密な広報を積極的に推進し、“患者さんを断る事のない”地域のニーズにしっかりと応えられる病院として、全職員の奮起を促したい。

来る超高齢化社会で問題になってくるのが在宅時の急性期憎悪対応で、当院も今後は一次救急病院との連携はもとより、かかりつけ医や、更に後方施設、介護領野との密接な繋がりを強化して、亜急性期の医療にも積極的に参画して参りたい。

厳しい今こそ当院に求められているもの—明日への飛翔—は医師をはじめ全職員の

団結が不可欠であります。

医師は兎に角医療に注力しがちですが、アンテナを広げて様々な分野に知見を広めていかざるを得ない時代になりました。

各種研修会、医療関連会議に院内外を問わず積極的に参加されて、情報収集にも努めていただきたい。

目の前の患者さんの事を真剣に考慮しつつ、他方経営面にも視野を広げて今後の地域医療の発展の為に、先ず何を最優先すべきか、全職員共々英知とアイデアを発揮していただく事を願い新年度の挨拶とします。

本年度における迅速な対応を要する事項（再掲）

1. 病院理念、規約、組織等の周知徹底
 2. 病院評価機構、ISOの取得更新
 3. 役職、中間管理職の意識改革
 4. 増患対策（入院・外来）：訪問医療、訪問看護（介護）、リハビリ
 5. 地域連携室の強化で病々、病診、病施、地域住民との連携強化
（医局・医事課・看護部・電算室・MSW・行政）：病床稼働率を100%に
 6. 未収金対策（外来、病棟、各センター）：経営の根幹に関わる事項
 7. 運営に直結する各種データ、資料等の作成（詳細に）
医事課・外来・病棟・各検査課（科）・栄養科・用度課
薬剤部・各診療科・フローゲン・健康管理センター
 8. 寿仁会機関誌《朋友 For you》の充実（編集委員の再選定）
 9. 在庫管理の徹底（薬剤、消耗品）・・・年間4ヶ月毎の集計、SPDの導入
 10. 備品台帳の整備（備品の配置場所の確認）
 11. 消耗品台帳の整理・・・年間4ヶ月毎の集計
 12. 各種院内・イベントの再構築（講演、研修、文化、スポーツ）
 13. ユートピア沖縄、クリニック絆、デイサービス、グループホーム等との密接な連携
 14. セントラルケアビレッジ構想の充実発展
 15. フローゲン会員の増員対策と活性化
 16. AMDA活動の推進強化
 17. 地域自主防災の構築
- ※時間内就業の徹底と自己研鑽の為の時間外研修への積極的参加推進

本年度の重点目標

1. ガンマナイフセンターの更なる充実発展
各種脳腫瘍をはじめ、機能的脳外科（パーキンソン病、三叉神経痛等）、血管疾患に対する血管内治療等、他の医療機関との連携を強化し、充実発展に努める。
2. 健康管理センターの充実発展
数年来の懸案事項であった協会健保との契約成立に伴い、更なる予防医学の充実発展に努め、後述の若年者の健康増進にも寄与する。
3. 高気圧酸素療法センターの充実発展
潜水業務をはじめ、スポーツ関連、更に各診療科における保険診療の拡大に伴い、各医療機関、市民への周知徹底を図る。

新規事業の企画と実践

1. 訪問リハビリテーションの開設

身体の不自由な方々の為の機能訓練施設の開設は、昭和53年度で県下第1号であったが、その後外来通院リハビリ、回復期リハビリと進め、本年度は在宅訪問リハビリのニーズに応えるべく積極的に推進する。

2. 三世代健診の企画を推進

少子高齢社会を迎えた今日、健康長寿を全うするには、中高年齢への対策に留まらず、幼少・若年期からの生活習慣の見直しが必要不可欠であり、当院ではメディカルフィットネスセンターを活用し、健康管理センターをより充実することによって、予防医学の立場から県民の健康維持、長寿に寄与する。

3. 認知症治療センターの開設

地方経済を支える人口動態は、2025年には高齢者が半数を占める。

若年層が減って高齢者だけの家庭や独居老人が増える。それ故に地域の中心となる高齢者が“元気で、健康で、楽しく”暮らしていかなければ地域も活性化しない。

医療や介護ばかりがクローズアップされているが、趣味を活かし、元気でいる為の健康に対する投資など、高齢者が必要にしていることはまだ残されている。在宅介護をどんどん推進する必要がある。

一方、これからの我が国は高齢化に伴い認知症も増え、介護する人のケアや指導に対するニーズは益々増えていくであろう。

認知症はアルツハイマー型が50%で、幻覚や妄想による異常行動で介護者の負担増で、肉体的にも精神的にも強いストレスになり、認知症本人はもとより、家庭崩壊にも繋がりがかねない結果をもたらす。

そこで当院の第二の展望として、病々連携、病診連携、かかりつけ医、歯科医、保健薬局、介護福祉関連施設、行政書士等にも参加していただき、後見人制度の関わる部分まで包括的に検討し、認知症の早期発見、早期診断、早期治療に取り組むたい。

☆認知症認定看護師・精神保健福祉士・臨床心理士・精神保健指導医等の確保

近未来構想

- * 全国 セントラル病院との連携（機能的に職員の交流、研修推進）
- * 全国 優良高齢者施設との連携（ユートピア沖縄）
- * 職員の海外研修
- * 電子カルテの導入
- * 診療科目の充実
- * 医療博物館の建設
- * 耳鳴眩暈治療センターの設置



2018年に向けて

沖縄セントラル病院 副院長 長島 直樹

新

年おめでとうございます。
旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

本年は当院にとって変化の1年になると思います。

肌寒さが次第につのるこの冬の季節に3人の医師が当院を去って行きます。それはとても寂しいことなのですが、各先生方の当院での今までの多大なる努力に感謝する反面、病院にとって新しい時代を迎えると前向きに捉えなくてはならないと思います。

今年早い時期に重要な役職を持った医師の入職も予定されており、病院の方向性にも変化が生まれるかも知れません。その他にも新しい医師、看護師、放射線技師、事務系の入職も予定されていますが、新しいスタッフも一緒にチームとしてより良い医療を目指すという目標に向かって進んでいきたいと思っています。

以前、旭川で学会があった時に足を延ばして旭山動物園に行ったことがあります。こじんまりとした動物園ですが、清潔感があり、何より動物たちを身近に感じることができるように工夫されているのに感心しました。地方都市にありながら今や日本で3番目の集客を誇る旭山動物園ですが、一時は閉園の話が出るほど閑散とした時期があって、試行錯誤を繰り返した末に現在の繁栄を見るようになりました。来園者が増えたのは、何ととっても動物たちの本来の生態を見せるように工夫された行動展示をするという発想の転換と上手な宣伝です。そして現在は収益が良くなって、職員も増えて余裕があるため清掃や細かい手入れが行き届いており、販売しているグッズもセ

ンスが良いオリジナル製品が多く、ここでも更に収益が上がるという好循環になっています。

もちろん病院と動物園を同じ立ち位置で語ることは出来ませんが、当院でも徐々に入院・外来患者数が増加していった、収益も安定してスタッフや設備など内容が更に充実していくような流れができることを願っています。そのためには当初は大変な思いをしたり、実際に苦勞をする場面も多いでしょうが、明るい未来を期待して力を尽くしていきたいものです。

「人生とは突然襲ってくる虚無感との闘いである」とは、かの司馬遼太郎の言葉ですが、常に集中して神経を擦り減らす医療の世界では時々経験する感情です。このように自分が行っている事に疑問を感じる時も助け合えるのがチーム医療です。慌ただしい日常業務の中で時々立ち止まって周囲を見回して、自分が独りよがりになっていないかどうか確認することも大切な事だと思います。

今年は仕事を整理・能率化すると共に、職員みんなが当院での仕事に誇りとやりがいを感じることができるような環境作りをすることに及ばずながら力を尽くしていきたいと考えています。標準医療を実践できるようにみんなで頑張っていきましょう。

文末ながら、改めて本年もよろしくお願い申し上げます。



職場を中心とした管理運営をめざして

沖縄セントラル病院 監事 東江 正隆

明

けましておめでとうございます。昨年は沖縄セントラル病院の改修工事、空調設備工事の療養環境整備と医療機器の更新、新規購入などを行い、医療活動に大きく反映させることができました。今年は、診療報酬と介護報酬の同時改定で医療・福祉をめぐる厳しい情勢になります。

沖縄セントラル病院は資本主義社会の企業という形でありながら院所の理念の実現を目的とし、「ひたすら病める人々のために心と心の深い絆を求めて」運営されている民主的な企業です。院所の目標と職員の目標は、民主的管理運営を通じて必ず一致出来るという特徴を持っています。この可能性を具体的なものにしていくのが部署を基礎にした民主的管理運営です。

部署を基礎にして、患者様のために全職員が知恵を出し合い団結して日常業務をすすめるチーム医療の前進が院所の団結の最も基本となる条件です。医療活動方針と経営活動方針を部署単位で討議し、理解を深め、そこから理事会、管理会に積極的に意見を集中（反映）させていくことです。

（予算計画、方針計画、月々の部署のまとめ等）

私たちの現在の医療活動は部署を中心という点においても、理事会、管理会を中心という点においても、中途半端になっていないでしょうか。患者様の意見の反映や職員が働きやすい職場環境づくりがおろそかになり、不平・不満が発生して、十分な成果をあげることが出来ていません。このような現状を改善していくために一人ひとりが部署長に集中し、部署長は理事会、管理会の方針を具体化して部署を中心とした医療活動と管理運営の徹底が求められています。

部署には、さまざまな生活背景と考え方を持った職員が集まっています。沖縄セントラル病院の医療活動に対する考え方は基本的には賛同していても、それぞれの理解の度合いは違います。従って、部署で意思統一し、協働して実践するためには部署内討議を徹底し、職員一人一人の自主性・自発性を引き出すと同時に個々人が実践に責任を果たすことが「カギ」です。役職員・職員一丸となって、頑張りましょう。

本年度も皆様にとって良い年になります様に祝念致します。

新春風景「もちつき大会」 ～平成三十年一月四日～



写真：島袋洋新病院長（左）と大仲良一理事長（右）





新年のご挨拶

沖縄セントラル病院 看護部長 喜久川 明日香

新

年明けましておめでとうございます。

患者様、ご家族様並びに地域の方々、職員の皆様におかれましてはつつがなく新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また昨年中、当院に賜りました数々のご厚情とご支援に対しまして、心より御礼申し上げます。

さて、2018年は「診療報酬と介護報酬の同時改定」の年であります。年を追うごとに厳しさを増していく医療・看護・介護を取り巻く環境は、我々医療従事者にもみならず、病院を受診される皆様、介護を受ける皆様、そのご家族様にも大きな経済的・心理的な負担となって現れ、将来の健康や生活基盤に暗い影を落としています。

とはいえ、我が国の低成長と人口減少の超高齢社会は加速度的に進んでおり、団塊の世代が要介護になる確率が高まる後期高齢者（75歳以上）に移行してくる2025年に向かっての対策として、「地域医療構想と地域包括ケアシステム」の更なる熟成は医療や介護、福祉のみならず社会全体から強く求められていると言えるでしょう。現在でさえ、社会保障関係費（社会保障給付の国庫負担）は31兆円を超え、国家予算（約96兆円）の約3分の1に達しているにも拘わらず、2025年には後期高齢者が2015年（約1600万人）の約4割増に達し、介護費用は現状の約10兆円から21兆円へ、さらに深刻なのは、専門職も38万人が不足するとの推定であります。つまり、現状のまま進むと、予算も専門職も足りず、医療も介護も、ひいては国家財政もパンクするという事になってしまうため、何とかして限られた医療・介護資源の中で、効率を高め、質も維持・向上

させながら、乗り切る必要があるのです。

このような大変厳しい社会情勢の中におきましても、当院としましては「ひたすら病める人々のために」の理念に基づき、皆様お1人おひとりに対して身体的なご病気のみを診るのではなく、生活背景を踏まえた「全人的な医療・看護・介護」を目指し地域における安心と健康長寿の一助となることを責務と考えています。「ときどき入院、ほぼ在宅」を主とする政策医療を担うため、地域のかかりつけ病院としてこれまで以上の病々連携・病診連携を促進していくとともに、業務の編成や質の在り方を見直し対応を図っていきます。医師や看護師・介護士等、マンパワー不足の続く厳しい現状ではありますが、職員一丸となって身近で安心・安全の医療の実践に努力する所存であります。

その取り組みの1つとしまして、今年3月には医療の質向上を目的とした外部評価「日本医療機能評価機構」の受審を予定しております。これまでも当院は、病院機能評価認定病院として皆様にご安心頂ける医療・看護・介護を提供できるよう尽力して参りましたが、今年度の受審は強化されたバージョンでの認定取得のため、着々と準備を進めております。

最後に、皆様にとりまして幸多い年になりますよう祈念しまして年頭のご挨拶いたします。どうぞ今年もあたたかいご支援とご理解をお願い申し上げます。



ユートピア沖縄ってどういうところ？

ユートピア沖縄 総支配人 儀間 政秋

沖

縄セントラル病院及びユートピア沖縄のスタッフの皆さん、明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

さて皆さん、今さらながらですが、「サ高住」と呼ばれている「サービス付き高齢者向け住宅」ってどういうところかご存知ですか。そう、老人ホーム系のカテゴリーには入りますが、厳密には特別養護老人ホーム(特養)や介護付き有料老人ホームとは違って、入居者の生活の自由度が高いアパートや賃貸マンションと同じく「賃貸住宅」の部類に入ります。但し、要介護入居者の安否確認・生活相談サービスを提供する事が「サ高住」の必須条件になります。

国はこれから急増する高齢者の対策として老人ホームを大幅に増やす施策を進めています。ただ、入居費用が安く国の助成金を多く必要とする特養は財政難を理由にその建設を抑制しており、全国で約37万人もの入居待機者がいるのが現状です。その溢れた高齢者の受け皿として民間の効率経営を活用して国の費用があまり掛からない「サ高住」を増やすため、助成金を出してその建設を促進する施策を推し進めています。それにより従来の社会福祉法人や医療法人以外から「サ高住」の経営を目指して土建業や建築業、保険業、製造業、飲食業など様々な業界からの参入が相次いでいます。

しかしながら近年の未曾有の出人不足の状況もあり施設によっては、建物は作ったものの必要なスタッフが集まらず、安否確認のためのスタッフは日中の時間帯のみ配置して、夜間は通報システムにより他の場所より駆けつける方式でオープンするケースも出ております。当然ながらこの様な状態では入居者に十分な介

護サービスを提供できる筈はありません。

ユートピア沖縄は「サ高住」ではありませんが、グレードの高い賃貸住宅の他に、クリニック、訪問介護、訪問看護、訪問リハビリ、居宅介護支援センター、グループホーム、デイサービス、直営の厨房などを併設した**複合施設**になっています。また、ユートピアやセントラル病院で働くスタッフの為に事業所内認可保育園や職員寮なども併設されていて、子を持つ親に優しい働きやすい職場になっています。ユートピア沖縄は平成21年度、国土交通省の高齢者居住安定化モデル事業として採択された全国26ヵ所の施設のうちの一つで、沖縄県で唯一、選ばれたサービス付き高齢者向け住宅です。

この様に医療法人が運営する**複合施設**であるユートピア沖縄は理事長の設立理念に基づき、夜間も常駐する看護師、資格をもった多くの介護職の他、日中は医師、医療相談員、生活相談員、ケアマネージャー、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、按摩マッサージ師、栄養士が常駐し、また隣接する母体であるセントラル病院の歯科医師など、多彩なプロフェッショナルスタッフを揃えて入居者様への安心・安全・利便性を提供しています。その様な施設は県内ではサ高住はもとより、特養、介護付き有料老人ホームなど含めて他にはありません。

実際にそれら多彩なプロフェッショナルスタッフとのスムーズな連携により入居者様やそのご家族様の利便性の向上や安心面に大きく貢献することになりご家族様からは感謝のお言葉を頂くことも多くあります。それが私たちスタッフの誇りでもあり、またユートピア沖縄の一番の強みでもあります。

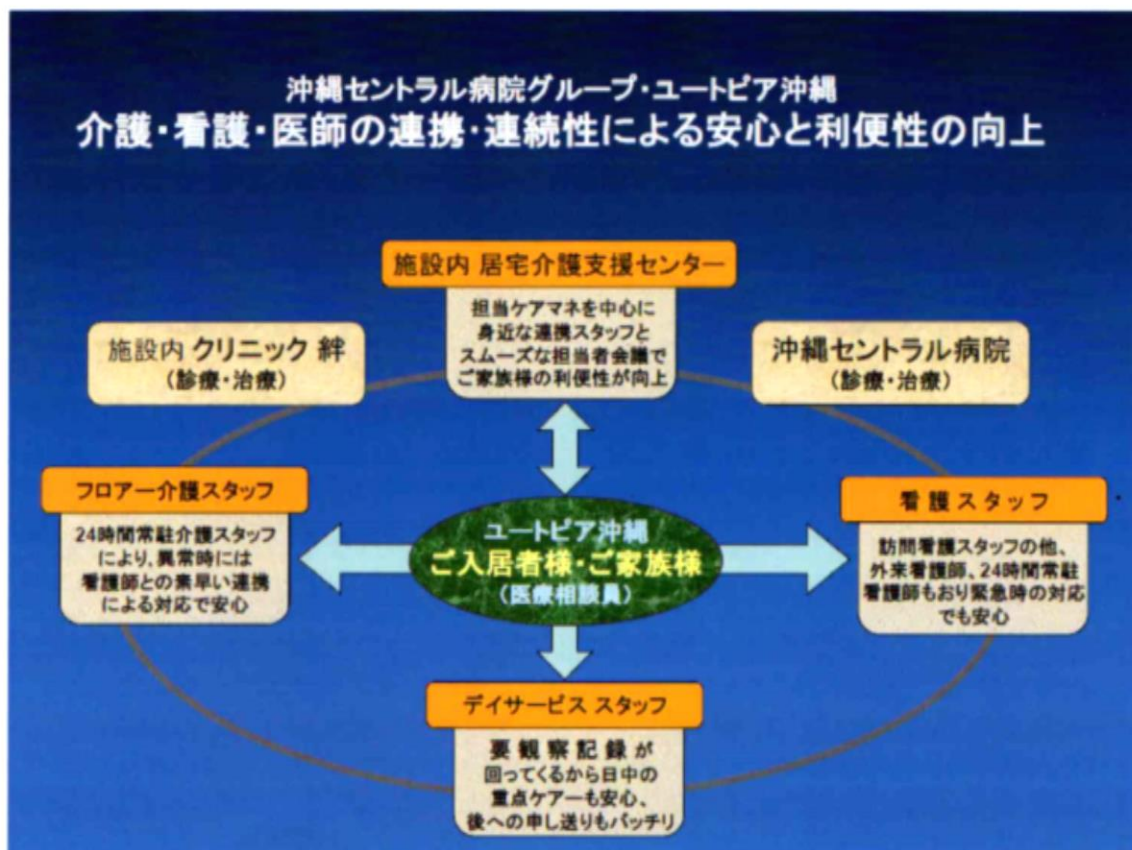
私たちユートピア沖縄のスタッフは

**お客様がユートピア沖縄を選んで
本当に良かったと心から満足し、
他に自慢したくなる様なサービスを提供すること**

の品質目標をモットーに、お客様の満足度を少しでも引き上げ、喜んでもらえる様に常にプロとしての知識の習得と技を磨き日々の業務に勤しんでおります。どうぞ今後とも寿仁会の皆様の変わらぬご支援とご協力賜ります様よろしくお願い致します。

本年もセントラル病院、ユートピア沖縄のスタッフの皆様にとって良い年になります様に祈念いたします。有り難うございました。

プロフェッショナルスタッフの 介・看・医 連携による ご本人様、ご家族様の安心



ユートピア沖縄は多彩な職種のスタッフとの連携がスムーズ出来る沖縄で唯一のサ高住です

上表のスタッフ以外に下記スタッフも揃っています

- ・デイサービス所属の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、あん摩マッサージ師
- ・直営厨房の栄養士 ・セントラル病院 歯科医師



ごあいさつ

クリニック絆 院長 友寄 英毅

明

けましておめでとうございます。
私は内科胃腸科医院を開業していましたが、地域の開発事業のため立ち退きとなり、46年9ヶ月で閉院し、昨年10月からクリニック絆に勤務しています。

81才（1936年生）で再び勤務医になれましたことは本当に幸運であり、大仲理事長はじめ関係者の皆様に心から感謝致しております。

ユートピア沖縄及びクリニック絆は建物、設備ともに美しく、入所者、職員の皆さんも明るく、いつも笑顔に満ちています。

診療の対象は、入所者の半分位（60数名）、外来患者（80名位）、職員数名です。その中には元の私の医院で診ていた人もかなりいますので、たいへん有りがたいことだと感じています。

クリニック絆の周辺は人家が密集していますので、今後、外来患者さんが増えてくることを期待しています。

私は日頃から、患者さんにとって話しのしやすい医師でありたいと思っています。

今年が良い1年でありますように皆さんと共に頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。



質の高いユートピア沖縄に向けて

ユートピア沖縄 看護師長 新垣 尋子

セ

ントラル病院・ユートピア沖縄の職員の皆様、明けましておめでとうございます。

本年が寿仁会全職員の皆様にとって素晴らしい年になりますよう祈念しております。

2017年は、10月からクリニック絆に友寄英毅先生が院長として就任され、クリニック絆が活気づき本当に喜ばしく思います。入居者様やご家族に対しても心強く感じられ、感謝と共に喜びの声を多く聞くことができています。理事長先生をはじめ、セントラル病院の先生方の御協力のお蔭を持ちまして、友寄先生をお迎えすることができ、心より感謝申し上げます。今後とも宜しくお願い致します。

近年、高齢化がますます進んでいます。より良いサービスに向けて取り組んでいる高齢者向けの施設が増加し、高齢者やそのご家族に選ばれる施設になる為には、今まで以上の努力が要求されてきます。

12月からは、当施設内のグループホー

ムでの訪問看護が始まりました。初めての試みとなりますが、グループホームでの救急搬送等の今まで抱えていた問題の解決に携わっていきたいと思います。また、訪問看護の幅を広げるにより入居者様や家族との信頼関係の構築が出来ると考えています。コストパフォーマンスも考慮に入れ、現状維持に終わらずにもっと喜んでいただける様な新たなサービスにも取り組んでいく必要があります。

2018年は、取り組んでいかなければいけない課題が沢山ありますが、沖縄本島をはじめ離島の高齢者も、「ユートピア沖縄に入居したい」「入居して良かった」という声が聴けるよう、また職員もユートピア沖縄に入職したことを誇りに思えるように、寿仁会の全ての部署との連携を強化し取り組んでいきたいと考えています。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



年頭に思う事

沖縄セントラル病院 医療技術部長 我謝 光茂

新

年あけましておめでとうございます。

昨年、年金受給の手続きをしました。いよいよ年金生活も数年先となり、この先色々考える時があります。

若いころ歴史小説が好きで、山岡荘八の織田信長の単行本を読んで、強く頭の中に刻み込まれた句があります。「人生50年下天のうちをくらぶれば 夢幻のごとくなり 一度生を受けて 滅せぬもののあるべきか」いかにも信長が好きそうな句である。

この句のように、今出来る事、今しか出来ない事のいくつかに挑戦した事がありました。

中学・高校の時、足が悪く普通に歩くことが出来ず手術を3回も行い、もちろん体育の授業は何時も見学でした。普通に歩けるだけでいい・・・ただそれだけが当時の望みでした。20代前半まで時々足の具合が悪くなる事があり、一生治らないとあきらめていましたが、いつしか症状がまったく出なくなり、30代の頃に那覇マラソンに参加しようと思ったのです。健常者ですら42kmを走ることは大変なことです。まして

や再発するかもしれない・・・してもいい。

今しか出来ないからと、意を決して挑戦しました。

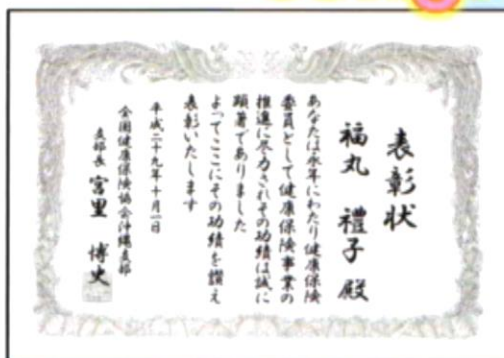
その時のタイムが30年たった今でも、はっきり覚えています。3時間45分54秒・・・。

その後、おきなわマラソンも含めて20回以上走りましたが、足の病気は再発する事はありませんでした。今は、10数年走ることを辞めてセントラル病院の、のぼりを片手に応援しています。

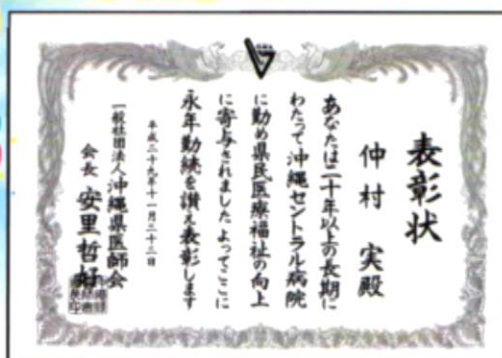
今は人生80年の時代、とは言え、家族にしてみれば長生きしてほしいと思うでしょうが、自分自身にとってみれば、50年も80年もさほど変わりはないのでは、若輩の自分が人生を語るにはおこがましいのですが、人生の終わりを迎える時に、出来る事はやたと悔いの無い終わりを迎えたいものです。

職員の皆様が健康でいい年でありますよう、そして、沖縄セントラル病院のますますの発展をお祈りいたします。

Congratulations !



**祝
表彰**



当院、経理部の福丸禮子部長とリハビリテーション科の仲村実科長が永年にわたる努力が認められ、福丸部長は全国健康保険協会沖縄支部より、仲村科長は沖縄県医師会より表彰されました。今後の更なるご活躍を職員一同期待しております。おめでとうございます！

Vol.4

わたしの本棚



総務課 鈴木 秀幸

作者のサン・テグジュペリは、言わずと知れた『星の王子様』を書き上げた人物だ。彼を児童文学作家と勘違いしている方もいるが、彼の人生は作家というよりむしろ職業飛行家を背景にしていると言える。

1920年代から30年代には既に彼の母国フランスから植民地のあるアフリカや、欧州からの移民が多かった南米等へ郵便物を乗せた飛行機が飛んでいる。まだ飛行機が安全とは言えない時代、空を支配する優越感や、大切な情報を伝達する使命感、はたまたいつ墜落するかもしれないという恐怖感を背負ってパイロットは操縦かんを握っていた。サン・テグジュペリもその中の一人だったというわけだ。

しかし、類まれなる観察眼と豊かな表現力によって、彼はただの飛行機乗りで終わらなかった。ペンを執り、多くの人々を魅

Recommended one book

『人間の土地』

サン・テグジュペリ

新潮文庫



了していったのは周知の事実だ。

今回、紹介する『人間の土地』は、職業飛行家としての経験を余すところなく描ききり、命をけずりながら新たな世界を見出していったサン・テグジュペリの人生の一端が凝縮した一冊だ。

愛機の窓から、星々と会話し、人間が作り出した道や街の灯りを思惟する。私が知る限り、最も高所に存在した哲学者はサン・テグジュペリだろう。仲間との友情、自然への畏怖、人間社会の在り様。彼のテーマは多層的でありながら、その筆致は実に繊細で美しい。原文で読めたなら…と思える作品だ。

ちなみに私が所有している新潮文庫は、宮崎駿が装丁を担当している。これもお気に入りの理由の一つだ。ぜひ書店や図書館で実際に手に取って見てほしい。

LINE UP

—情報の玉手箱 NEWS BOX—

NEWS
BOX

★クリスマス会

★平成29年度忘年会



平成29年12月18日(月)

毎年恒例のクリスマス会にピンブ保育園から小さなサンタさんが歌のプレゼントを持って遊びに来てくれました。可愛い踊りに会場全体が華やき、思わず笑顔がこぼれました。



平成29年12月22日(金)

クリスマス仮装忘年会では、サンタやトナカイ、ヤドカリやルートベア等趣向を凝らした衣装で参加し、カラオケやビンゴ大会で盛り上がりました。また、来年に向けて新たな気持ちにもなりました。

お知らせ

次号は4月発行予定です。

新しい季節の到来は変化の時期でもあります。広報誌を通して様々な情報をお伝えしていきたいと思っております。お楽しみに！！





医療法人 寿仁会

沖縄セントラル病院

理事長 大仲 良一



オンリーワンを目指し、地域と共に半世紀。

基本理念

- ・ ひたすら病める人々のために
- ・ 健全なる人々の更なる健康増進のために
- トモ
- ・ 集いし職員の生涯修養の館たらんことを

地域の皆様の笑顔と健康のために



ガンマナイフセンター



メディカルフィットネスセンター



高気圧酸素治療センター



健康管理センター



メディカルフィットネスセンター
フローゲン センター長
金城 友一

かつて、ヘレンケラーはこんな言葉を残しました。

「盲目とは悲しい事。けれど目が見えるのに見ようとしないのはもっと悲しいことです。」

病院というのは、体や心の不調で困ってる人たちが集う場です。

そんな心と体が弱った人々の力になってあげられるのが我々医療人です。

目の前にいる困った人のため、自分の能力を最大限に発揮する。

力が足りなければ、更に向上心を持って勉学に励む。

日々の忙しさに流されることなく常に問題意識をもっていたいものです。

病院理念の一つに「ひたすら病める人々のために」とあります。

誰かのためにがんばれる、そんな素敵な仕事にめぐり逢えたことに感謝です。

人生は一期一会、今日という今を大切に生きましょう。

■ 一般診療体制表

診療科	AM/PM	月	火	水	木	金	土
脳神経外科	AM	大仲・島袋	大 仲	島袋・千葉	大 仲	大仲・島袋	大 仲
	PM	大仲・島袋	大仲・島袋	島袋・千葉	大仲・島袋	大仲・島袋	大 仲
内科 1	AM	石 田	石 田	石 田	石 田	石 田	石 田
	PM		中 村		中 村		石 田
内科2(総合診療)	AM						
	PM	藤 倉		藤 倉		藤 倉	
心療内科	AM	石津医師 完全予約制(不定期 月1~2回)					
	PM						
外科	AM						
	PM	長 島※1		長 島※1	下 地		
循環器内科	AM		鈴木(第2・4)	鈴 木			
	PM	鈴 木				鈴 木	
整形外科	AM	平	平	守 屋	守 屋	平	琉 大
	PM	平	平	守 屋	守 屋	平	守 屋
皮膚科	AM				琉 大		
	PM						
歯 科	AM	當間・仲程	當間・仲程	當間・仲程	當間・仲程	當間・仲程	當間・仲程
	PM	當間・仲程	當間・仲程	當間・仲程		當間・仲程	

※1 外科・専門外来(乳腺外来・甲状腺外来・禁煙外来)

■ 特殊診療体制表

診療科	AM/PM	月	火	水	木	金	土
ガンマナイフ 治療・外来	AM					小西(第2・4)	小西(第2・4)
	PM					小西(第2・4)	小西(第2・4)
高気圧酸素治療	AM	大 仲	大 仲	大 仲	大 仲	大 仲	大 仲
	PM	大 仲	大 仲	大 仲	大 仲	大 仲	大 仲

■ 健康診断・精密検査

診療科	AM/PM	月	火	水	木	金	土
内視鏡検査	AM	長 島	長 島	長 島	下 地		
健診・人間ドック	AM	大仲・(藤倉)	大 仲	大 仲	大仲・(長島)	大仲・(守屋)	大 仲
乳がん検診	AM	長 島	長 島	長 島	長 島		
内科健診	AM	石 田	石 田	石 田	石 田	石 田	石 田
婦人科健診	AM	中 村	中 村	中 村	中 村	中 村	中 村

■受付時間 / 午前 8:30 ~ 12:30 午後 13:30 ~ 17:30

■診察時間 / 午前 9:00 ~ 13:00 午後 14:00 ~ 18:00

直通電話のご案内

◎ガンマナイフセンター (098)854-5516

◎医療福祉課 (098)855-7200

◎メディカルフィットネスセンター「フローゲン」 (098)854-5541



■ 編集後記

明けましておめでとうございます。寒い日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。
先日インフルエンザ注意報が発令されたように、体調を崩しやすい季節にさしかかりました。年末年始は忘新年会や送別・歓迎会が増え、生活が不規則となりやすいですが、規則正しい生活を忘れず、体調管理に注意したいところです。
さて昨年は病院リニューアルに伴い、院内が明るく生まれ変わりました。今年も明るい院内環境を保って行くため、日頃から身の周りの整理整頓や患者様への気配りを怠らないよう、医療従事者として気を引き締めていきたいです。
今年も皆様にとって良い年となりますようお願いを込めて、編集後記とさせていただきます。皆様方に楽しんで頂ける広報誌を作成できるように努めていきますので、今後ともよろしくお願い致します。

広報委員 友利